学校番号	219

平成 31 年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版「高等学校数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	改訂版「４プロセス数学Ⅰ＋Ａ」　（数研出版） 「Ｆｏｃｕｓ Ｚ数学Ⅰ＋Ａ」（新興出版社啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では自ら考え、課題に積極的に取り組みます。
・内容を覚えるのではなく、理解しようと努力します。
・ノートを書くときには、黒板の内容だけでなく、担当者の言葉で必要だと感じた部分を書くようにしましょう。
・問題集用ノートを作って、授業がおこなわれた日の自宅学習で、授業内容の問題を解き、わからない部分に関しては、翌日中に質問をし、克服するようにしましょう。

2　学習の到達目標

数と式、図形と計量、２次関数およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、２次関数、図形と計量およびデータの分析における考え方に関心を持つとともに、問題集に意欲的に取り組む。また、授業中にいかに考えてノートを作成するかという態度で評価をする。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、２次関数、図形と計量およびデータの分析において、どのような解き方をすればいいのかという思考力、またその公式をなぜ使用したのかという判断力、いかにまとめて解いたかという表現力で評価をする。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、２次関数、図形と計量およびデータの分析において、様々な解き方をすることができるかどうか。また、より数学的な方法で解こうとする技能で評価をする。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、２次関数、図形と計量およびデータの分析において、式の成り立ちや公式の意味を理解し、問題の意図を理解して解くことができる知識を身につけることができるかどうかで評価をする。
評価方法	定期考査 課題提出 授業時の発表	定期考査 課題提出 授業時の発表	定期考査 課題提出 授業時の発表	定期考査 課題提出 授業時の発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	数と式	式の計算	○	○	○	○	a:計算問題をたくさん解くことができる。 b：どの公式を利用したらいいかを考えることができる。 c:迅速に解くことができる。 d:展開・因数分解・不等式の性質を理解することができる。	定期考査 課題提出 授業時の発表
		実数	○			○		
		一次不等式	○		○	○		
	集合と命題	集合	○	○	○	○	a:共通部分・和集合・真偽に関心をもつことができる。 b:ベン図を用いて考え方を整理することができる。 c:集合と命題を関連付けて解くことができる。 d:必要条件・十分条件について理解し、証明に活用することができる。	定期考査 課題提出 授業時の発表
		命題と条件	○	○		○		
		証明	○	○	○	○		
2学期	2次関数	2次関数とグラフ	○	○	○	○	a:グラフと方程式・不等式の関係について感心を持つことができる。 b:判別式と共有点の個数を関連付けることができる。 c:グラフを利用して、方程式・不等式を解くことができる。 d:グラフ・方程式・不等式・判別式・共有点の個数についての知識を身につけている。	定期考査 課題提出 授業時の発表
		2次関数の値の変化	○	○	○	○		
		2次方程式と2次不等式	○	○	○	○		
	図形と計量	三角比	○	○	○	○	a:直角三角形と三角比の関係に関心を持っている。 b:相似の考え方を用いて、三角比の性質を考察することができる。 c:三角比の値から角の大きさを求めることができる。 d:三角比の相互関係を三角比の定義と関連付けて理解している。	定期考査 課題提出 授業時の発表
		三角比の相互関係	○	○	○	○		
		三角比の拡張	○	○	○	○		

3学期	三角形への応用	正弦定理	○	○	○	○	a:辺の長さや角の大きさと正弦定理・余弦定理との関係に関心がある。 b:正弦定理・余弦定理と面積の公式との関係を考えることができる。 c:平面図形だけでなく、空間図形においても、正弦定理・余弦定理・面積の公式を使いこなすことができる。 d:正弦定理・余弦定理等の公式を理解することができる。	定期考査 課題提出 授業時の発表
		余弦定理	○	○	○	○		
		面積	○	○	○	○		
		空間図形への応用	○	○	○	○		
	データの分析	散らばりと四分位数	○	○	○	○	a:ヒストグラムや折れ線グラフ等のさまざまなグラフによって、分析の方法が変わることに関心をもつことができる。 b:さまざまなグラフでの表現方法を考察することができる。 c:データから、分散・標準偏差・四分位数等の計算をすることができる。また、それを用いて、必要な形のグラフに表すことができる。 d:データを整理する方法を理解している。	定期考査 課題提出 授業時の発表
		分散と標準偏差	○	○	○	○		
		データの相関	○	○	○	○		